



# オーストラリア

We can do it.

形原中 鈴木 里沙子

言葉は自分の気持ちを伝える手段の一つです。英語を話せない私と日本語を話せないブラックバーン校の生徒。互いに思いがうまく通じず、困ったことも多くありました。でも、必ず思いは伝わるということを学びました。それは、互いにわかりたい、伝えたいという気持ちがあったからです。自分ができると思えば必ず伝わります。言葉の壁はすごく大きかったけれど、それと同時に「できる」という気持ちをもつことの大切さ、人の温かさをこのツアーで実感しました。

今年で、23年目となる中学生の海外派遣事業が、10月19日～27日の8泊9日の日程で行われました。

今回は、市内の7中学校14人の生徒がオーストラリアを訪問し、現地の中学生との交流やホームステイを通して、海外の生活、文化、風土に対する理解を深めました。

今号では、参加した生徒の声をご紹介します。

一生の宝物

三谷中 村松 吉晃

今回、オーストラリアに行って、自分が成長できたことを感じています。なぜなら、自分から積極的にホストファミリーやブラックバーン校の生徒に話しかけることができたからです。また、この海外派遣が自分にとってすばらしい思い出として残っています。ともにオーストラリアへ行った13名の派遣生と過ごした時間などすべてが一生の宝物です。オーストラリアにはもう一度行きたいとも思いました。

Australian foods

大塚中 安井 玲二

一番印象に残ったことは、オーストラリアの食べ物です。何か大きな物をどーンという感じが多かったです。朝食はほとんどの家庭がシリアルで食事を済ませていることもわかりました。でもそういう反面、僕たち派遣生が慣れないことに戸惑っていると、そのつど気を配ってくれる優しくてまめなところがあるんだなあということも、ホームステイを通して実感できました。また、逆に日本のよさや、自分の家のよさなどがわかりました。

心も広いオーストラリア

塩津中 伊藤 謙

ブラックバーン校は、アクセサリーや髪型などは自由でしたが、授業の時には集中して取り組んでいました。僕が廊下で、すれ違った友達に思い切って「Hi!」と声をかけると「Hi,Ken!」と明るくあいさつを返してくれました。僕はこのツアーで、オーストラリア大陸のように心が広いオーストラリアの人々と一生の思い出を共有することができたと思います。

I can hear you.

蒲郡中 小池 和香奈

私がオーストラリアの研修で一番心に残ったことは、ホームステイ先でのことです。「朝ごはんは何がいいですか?」「調子はどうですか?」などの日本語なら簡単に返事ができる日常会話でも、英語になると、聞き取れても何て言えばいいのかわからなくて困ったりしました。しかし、お互いにわかりあえた時の感動はととても大きかったです。そのときはとても大変だったけど今思えばいい思い出です。

最高の学校訪問

蒲郡中 木村 隆一

僕たちは、ブラックバーンハイスクールに4日間訪問させてもらいました。学校の様子は日本とはまったく違い、いろいろなことが自由でした。例えば、お菓子やゲームは当たり前を持ってきていて、教室ではボールを使って遊んでいました。授業もオーストラリア独特でした。僕はこの研修で本当にいろいろなことを学び、そして物事を見る視野もすごく広がったと思います。この体験を支えてくれた人全員に本当に感謝でいっぱいです。

「ありがとう」という言葉

中部中 瀬川 葵

私はこのホームステイで、今の生活の「ありがとう」を実感しました。ホストファミリーの家では、朝起きてもだれもいません。朝ごはんはすべてセルフです。それにオーストラリアは水不足なので、シャワーのみです。日本では朝起きると、お母さんが作ってくれた朝ごはんがあります。それにお風呂だって毎日入れるし、湯船につかることもできます。このスタディツアーは、自分の生活のありがたさを知る、とても有意義な研修でした。